

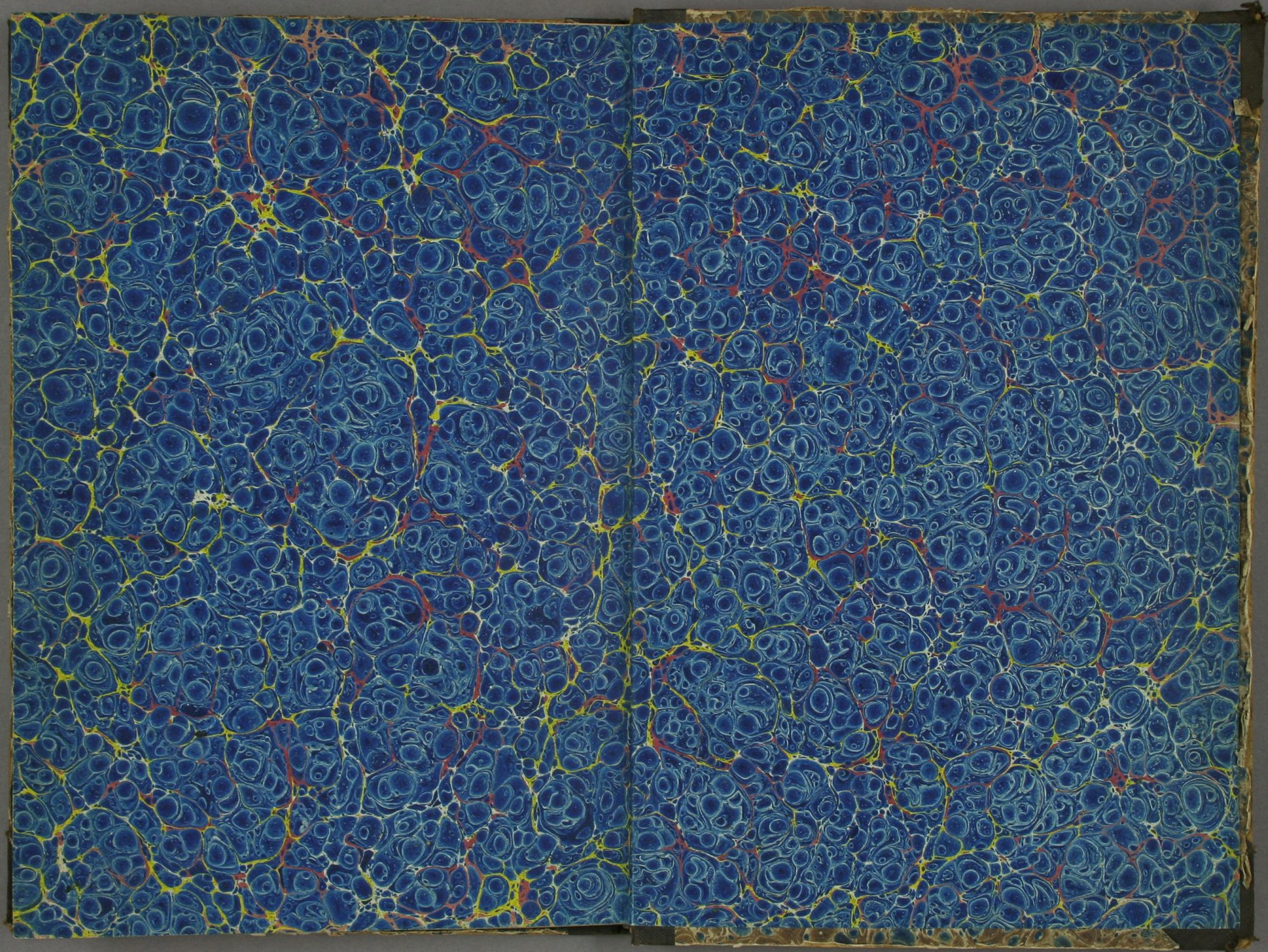
宋抄寫經

見

口
廿三

リ 5
7957





Handwritten text in a vertical column on the right page, possibly a signature or a date.

門 5
號 7957
卷

早稻田大学 圖書館
昭和 35. 7. 7
藏 書

開拓總督府設置趣意

細目

緒言

第一章

開拓總督府

第二章

開拓總督府組織権限

並ニ北海道行政區画



緒言

方今宇内各國ノ殖民政策ヲ案スニ各國皆臨機變ニ應ズル特
制ヲ設ケ殖民長官ニ委スルニ至大ノ專斷權ヲ以テモサルハナシ
蓋シ歐洲各國ノ殖民地ハ概シ其本國ヲ距ルテ特リ遠處ナ
ルノミナラス新開ノ土地或ハ人煙稀疎ニシテ文物ノ徴スヘキナク
又風俗慣習ヨ異ニシ本國ノ制度ヲ以テ統御スルテ克ニサレ

モノアリテ存るガ故ナリ

蓋シ歐州ノ殖民地ハ皆優畧主義ノ結果トシ生出セルモノニシテ
其土人ヲ鉗制スルニ兵力ヲ以テシ稅賦ヲ厚クシテ國庫ヲ富マシ
ハ本國無産ノ徒ヲ移植シ以テ國內ノ充實在ルニ平、空氣ヲ漏泄
セシキヲ偏ニ本國為テ唯利是収セルノ目的物タルニ外ナラズ故ニ強
ク其類例ヲ取テ之ヲ北海道ノ施政上ニ應用スル克ハサルハ智者ヲ俟テ
後識ラスト雖モ彼歐州各國カ終多ク歲月ト費用トヲ消滅ホ
シテ完成セル今日ノ殖民制度ハ之ヲ我北海道ノ移民政策上ニ
應用シテ其利益ノ極大ヲ考カルヲ信ス莫ク印度ニ於ケル佛ノ安
南ニ於ケル西路ノ東亞細亞ニ於ケル其殖民制度考サノ異同ヲ
比特制ヲ設ケテ長官ノ權限ヲ大ニシ因テ以テ殖民地ノ統御ニ便シ
其發達ヲ促スノ點ニ至テハ其揆一ナリトテ可シ

我北海道ハ日本帝國ノ一部ニシテ歐州人所謂殖民地ニ非サ
ルヤ固ヨリ明瞭ナリト雖モ其南都天ノ沿岸地方及石狩河岸ヲ
除ク外ハ各斤殆トチタ山林ニ入ラズ十里ノ沃野ハ宜シク荒蕪

ニ年シテ一望東夷鳥跡歎蹄ヲ印ス無人ノ境ニタリ天レ然リ
北海道ハ宜シク新聞ノ境ニ屬シ徳川幕府政權ヲ握ルノ百ノ力開
拓ニ着手ス大ニ國力ヲ注キ拓地移民ノ策ヲ講シタルハ宜シク維新
以降ニ在リ而シテ各縣武ノ開拓使トナリ三縣分置トナリ又現時ノ北
海道ニ廳ト外ニ屯田司令部ヲ置キ以テ兵民而旗ヲ管轄セシムルヲ
我政府ノ北海道ニ對シテ施政ハ頗ル實驗ト歳月ヲ費キタリ然レモ拓
地移民ノ業ヲ旺盛ニ達セズ今日移民論者ヲシテ海外移民
ノ必要ヲ唱道セシムルニ至リシ所以ノモノ現政府ノ移民政策ニ百年
ノ長計ヲ確定スル莫ニ於テ盡ク欠クル所ナラサルカ一貫ノ鋼鎖ヲ
恪守シ本末ノ目的ヲ達スル莫ク於テ盡ク充分ナラサル所ナラカ故ニ
沈年然ラスシハ我邦ノ人口繁殖ヲ以テ將來ノ糧ニハ一大憂患トシ
豫メ無産ノ徒無カラシメテテ希望スル憂國ノ志士ニシテ宜シク海
道ノ沃野ヲ看ル猶ホ赦復ヲ視ルカ如ク翻テ移民地ヲ南洋ニ
南洋諸島ニ相スル理アリヤ思フ此ニ至レバ北海道ノ拓地移民ニ

開シテ八目下大ニ研究ヲ要スルモノアリシ 近時漸ク勅興思ハク多任心ヲ
シテ信^北北海道ニ注財セシメサルベカラサルハ 席上ノ空位ニ非スシテ實ニ
北門ノ鎖鑰ヲ堅固ニシテ緊急問題ナリトス 夫レ極運ナルモノハ時
アリテ来リ又時アリテ去ル 而テ功ノ成否ハ空ニ此極運ニ乘ズルト否ラ
サルトニアリ 極運ニ乘ズルモノ 逸シテ切リ収メ吾ラサルモノ 方シテ償
サシ是レ蓋シテ為政家ノ深ク鑑ムヘクナリ 我北海道ハ今モ實
ニ此極運ニ際會スルモノナリ 請フ以下ニ於テ之ヲ利用スルノ方法リ
述シ

第一章 開拓總督府

我政府ハ北海道ノ開拓事業ニ着手セシ以來 其施設機關上
ニ幾多ノ変更ヲ加ヘ後テ 經驗ヲ積ムテモ亦缺クナラス 而テ今
ヤ施設機關トシテ現在スルモノニナリ 一ハ北海道ノ體ト爲シ一ハ屯
田兵司令部ト爲シ一ハ物産民ヲ管轄シ一ハ屯田兵ヲ管轄ス
ル所ニシテ一見互ニ互ニ分画然タルカ如シ 然レモ 權力相均シキモノハ

其功ヲ競ヒ利害相同ヤモノ 其利ヲ争フニ至ルハ 古今一轍ニ云ハク之
ニ及ビ彼ノ北海道ニ三縣ヲ分置セル如キハ 其外觀恰モ鼎足ノ勢ヲ
ナシテ地ニ人煙ノ過不足ナク 全道ヲ一境ト爲シ 一方畧上其血ヲ得ルモノ
ニ似たり 然レモ未ダ其功ヲ奏スルニ至ラズシテ之ヲ瘡セシ所以ノモノハ 權ハ原因
之ヲシテ 然ラシメタルベシト 雖 畢竟スルニ至リ 其權力ヲ張リ 其官下ノ發達ヲ希
目シテ 紛々擾々之カ統一ニ若シモノ 其主因タラズニハアリス 開拓使ハ明治
五年ヨリ今十四年ニ至ル 三有ク 事業ヲ擴張シ 其功績見ルヘキ
モノサカニ 世人ニ開拓使ノ實績全額ノ巨力ナルヲ見テ 損益相
償ハストナシ 弊實ノ存スル処ヲ 穿テ官利ノ場トナスト 雖モ是レ監督
ノ方法具備セサルノ致ス所ニシテ未ダ 其施設機關タル 開拓使ノ可忍ヲ
論漸ク是ニ至ラサルナリ 開拓使カ十年間 勸搖スル一ナク 兵政民政ヲ統轄
シテ能ク開拓ノ端緒ヲ開キ 今日アルニ至ル 所以ノモノハ 其長官ヲ大臣
ニ列シ 移民事業ヲ一ニ大權カ下ニ 總括シテ 兵民兩政ノ統轄ニ權

衝其平ヨ得タルカ故ナリ然レニ明治十四年開拓使ヲ添シテ三縣ヲ置キ今
十八年亦三縣ヲ添シテ北海道廳ト此田兵本部トヲ并置セリ二者長
官其人ヲ果ニスルヤ權カ、衝突アルカ免レズ茲ニ於テカ今北二年ニ
至リ西條國殖民制度ノ一斑ヲ採リ此田兵司令官ヲシテ北海道廳長
官ヲ兼ホシテ以テ二者ノ調和ヲ計ルモ事業面トカラ創始ニ係ルヲ
以テ前官制度其目的ヲ達スル能ハズ今ヤ又新ニ道廳長官ヲ置ク
ニ至リ夫レ斯ル如ク添使置縣以來僅ルヤ有餘年ニシテ官制ヲ更
新シタルノ前後數回加フルニ一國ノ疆域ヲ確定セサルカ故ニ更新
ニ伴ヒ來ル種々變動ハ開拓事業ノ進歩上ニ甚多ノ障礙ヲ與ヘ
一進一退國費ヲ空耗スルモノ極メテ考メテ知ル豈北海道ノ
政略上其宜ヨ得タルモノト云フヲ得ヘケンヤ

部ト道ニ屬トシテ衝突ヲ來シ兵民而政ノ施行上ニ支障ヲ生シ後テ又之
ヲ兼轄スルノ一主領ヲ置ク必要ヲ見ルヘキヤ明ナリ是レ豈ニ今日ノ輿論ニ滿
足ト思ヘ天下ノ移任心ヲシテ沛然トシテ北海道ニ注射セラルニ足ラニヤ夫レ然
リ時々官制ヲ改革シテ官吏ヲ淘汰シ長官ヲ精選シテ天下ノ耳目ヲ
後算動カカ如キ目前ノ利益益ハ武ハ之レナキニ非サルヘシト強ク未タ大ニ北海
ノ宝藏ヲ開発シテ帝國ノ富源ヲ増進スヘキ百年ノ長計ヲ定ムル者
リ觀察スルニ其ノ姑息ノ策ト云ハサルヘカラス添使置縣以隣我政府
ノ施行セル殖民政略ハ之ヲ圓形ノ端ヲ環ルニ喩フ緩急ニ疾除其坐廢
之ヲ同フセサルモ終始循環シテ大ニ奔脱スル所アルカ若シ夫レ大ニ
奔脱シテ回來ノ面目ヲ一新セント欲セバ又大ニ施設スル所アルカ要ス
其方法如何ト曰フ尙拓總督府ナル高才ヲ官衛ヲ新設シテ兵政
民政ヲ統轄セラルニ在リ

果シテ尙拓總督府ヲ設ケ北海道ノ施政ヲシテ一途ニ出シタル今日ノ如ク兵民
ノ兩政互ニ衝突スルノ甚トキニ至ラズ地宜ヲ相シテ感ハ曲庇民ヲ物レ感ハ此田

兵ヲ排布スルヲ施政上ノ便利極マテ大ナルヘリ 従テ南拓物民ノ普及ハ駿ク
キトシテ夫レ其歩ヲ進ルニ至ラン人武ハ此總督府ヲ目シテ亦ニ南拓使
トナシ 許多ノ國當リ消滅スルノ媒物トナスモノアラシカ 然レモ憲法
實施ノ今日ニ於テ總督上ノ豫備ニ具備シ決シテ弊害ヲ醸出スル
ノ虞 アランヤ

既ニ述ヘタル如ク英佛獨露等歐洲各國ノ殖民制度ヲシテ之ヲ北海
道ニ應用シ得ベキモノカラス 然レモ我ニ採用スルニ尤モ適切ナル制度
ハ遠ク之ヲ印度南洋若クハ亞弗利加等ノ殖民地ニ求ムルヲ要セズ帝國ト
一帯ヲ帶水ヲ隔テ横ル東方露領及滿州尤モ其適例ヲ与ルモノナリ
今茲ニ其大要ヲ引例スルニ蓋シ無益ノ業ニアラサルベシ

夫レ西歐國ノ其範圍極メテ大ナリ西南首ヲ黑海バルケツク海ニ及ケテ
東尾ヲ東察加大平洋沿岸ニ掉テ而メ此ニ至大ナル範圍 其文化ニ
至リ至左アリ土地ニ新回アリ 平等ノ法律ヲ以テ全權ヲ支配スル能ハス 是
カ州縣ノ別アリ 縣トハ縣制ヲ施行セリ 行政区ニシテ莫加爾湖 西ノ

多義耳 ハ斯科縣ニ於ケルカ如ク 州ノ範圍國ノ範圍ニ場セシ迄是年
數ヲ歴ン末タ久シカサルカ若ク特制トモ事情ノ存スルアリテ 手ヲ轉制ヲ

施行スルニ至ラザル 行政區画ニシテ大平洋沿岸ノ地ヲ沿海州 黑龍江一帯
ノ地ヲ黑龍州(以上三州ハ一八七六年及一八八六年ノ清露條約ニ依テ露領ニ場セシモノ
ナリ故ニ併吞後僅ニ十年許ノ間爾ヲ歴スルニ過ぎズ) 莫加爾湖 庫連ノ地ヲ後貝
加留州ト稱スルカ如シ 一ニ特制ヲ布リテ要アリ 一ニ之ヲ施スル域ニ達セサルモノニ
シテ今茲ニ引證セシト 欲テ殖民制度ノ行ハルニ至ルニ此ノ諸州ニマリス

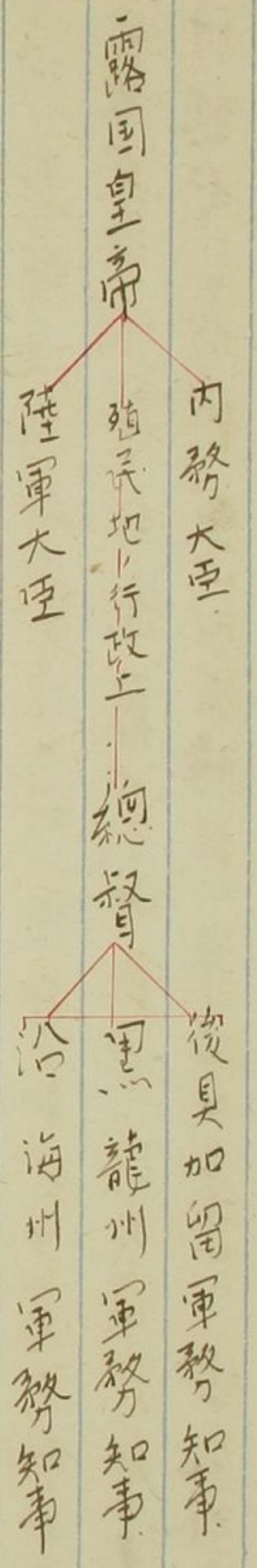
以上三州ヲ包覽スルモノヲ沿黑龍行政區画ト稱ス
沿黑龍行政區画ニハ露西帝國ノ一大行政区ニシテ管下ノ三州ハ其下
位ニシ 一ノ行政区ニナリ 是レ宛ニ我國ノ府縣ト郡市ナル小行政区ナルカ如
シ

此行政區画ハ同時ニ露國ノ一ノ軍管區ヲナス 即チ我北海道ノ一軍
管ニ於テカ如ク 長官一員ヲ置キ民政ヲ掌握シ 兼テ軍管區ニ駐紮ス
ル兵事ヲ統督ス 即チ軍管司令官タリ之ヲ總督ト稱ス

總督、親任官ニシテ皇帝陛下ノ特選ヲ受ケ此、大臣ヲ帶ルモノナカ故ニ皇
族若クハ皇帝陛下ノ信任最ニ優渥ナル侍從將官ヲ以テ之ニ任ス其權限
固、行政上ノ長官トシテ、主務大臣ニ隸屬スル地方、長官トシテ、西歐
皇帝ニ直隸シ其管下ニ對スル地方行政、長官トシテ、其狀況ニ陸軍
内務兩大臣カ縣制ヲ施行スル地方ニ對シテ有ル權限、如シ故ニ總督
ニ其管下ニ對シテ、陸軍大臣内務大臣ニ資格ヲ係有スルニシテ、其官
カハ彼比ニシテ、較強シキリトス而シテ其管下、行政、松岡、各州、軍
務縣令、各州内駐紮、諸兵司令官ヲ任命シテ、國、行政、地方、行政、
ヲ執行スル所、如ク、總督ハ其管下ニ對シテ文武、兩權ヲ掌握スルニシテ、
之時トシテハ、國際交渉、機密ニ參考スル權アリ、今其官例ヲ上テニ
當テ中央、重臣、重鎮ニ於テ、諸汗國ニ對シテ、宣戰、媾和、權ヲ掌
之ニ總督ニ委任セシマリ又、冷黑龍、總督ハ明治十七年、朝鮮、京
城ノ變ニ際シ、朝鮮政府ヨリ、派出シタリ、使節、來テ、露、國、保護
シシマヤ、一、露、帝、上、奏シテ、允可シ、受ケ、本、邦、駐、在、露、重、公、使、館

書記官某ニ下命シテ、朝鮮、京城、赴カレ、タリ、
此外、總督ハ其管下ノ人民ニ對シ、
全體ヲ適宜ノ養育ニ任スル權アリ、然レモ、是レ人民ノ休戚ニ關スル
大ナル力故ニ、豫メ、大政府ヨリ、視目ヲ列記シ、特ニ此權限ヲ付與スルモノ
ニシテ、固ヨリ、總督ノ專斷ニ出ルコトナラズ
總督ノ幕下ニ、參謀長アリ、參謀將官ヲ以テ之ニ任シ、參謀長ハ、軍管
司令官ヲ補翼シテ、管下ノ、兵政ヲ、理シ、又、勅任、文官アリ、總督ノ、指揮
監督ヲ、受ケテ、管下ノ、民政ニ、任ス
各州ニ、軍務、知事アリ、總督ノ、指揮、監督ヲ、受ケ、民政ヲ、理シ、管下
管内ニ、駐、在、スル、諸兵、司令官ニ、任ス、軍務、知事、タルモノ、概シ、參謀
大學、校、出身ノ、將官ニ、シテ、其、幕下ニ、參謀長アリ、又、官、アリ、其、掌、理、ス
ル、所、總督ノ、首席、僚、員、ニ、シテ、其、權、限、之、廣、狹、ヲ、差、ス、ル、ニ、
此外、哈薩、克、屯、田、兵、村、ヲ、包、有、ス、州、ノ、軍、務、知、事、ハ、又、其、司令、官、ヲ、兼、屯、田、兵、
團、ニ、一、切、ノ、行政、事項、ヲ、處、弁、ス、故ニ、黑龍、後、身、加、ル、西、州、ノ、軍、務、

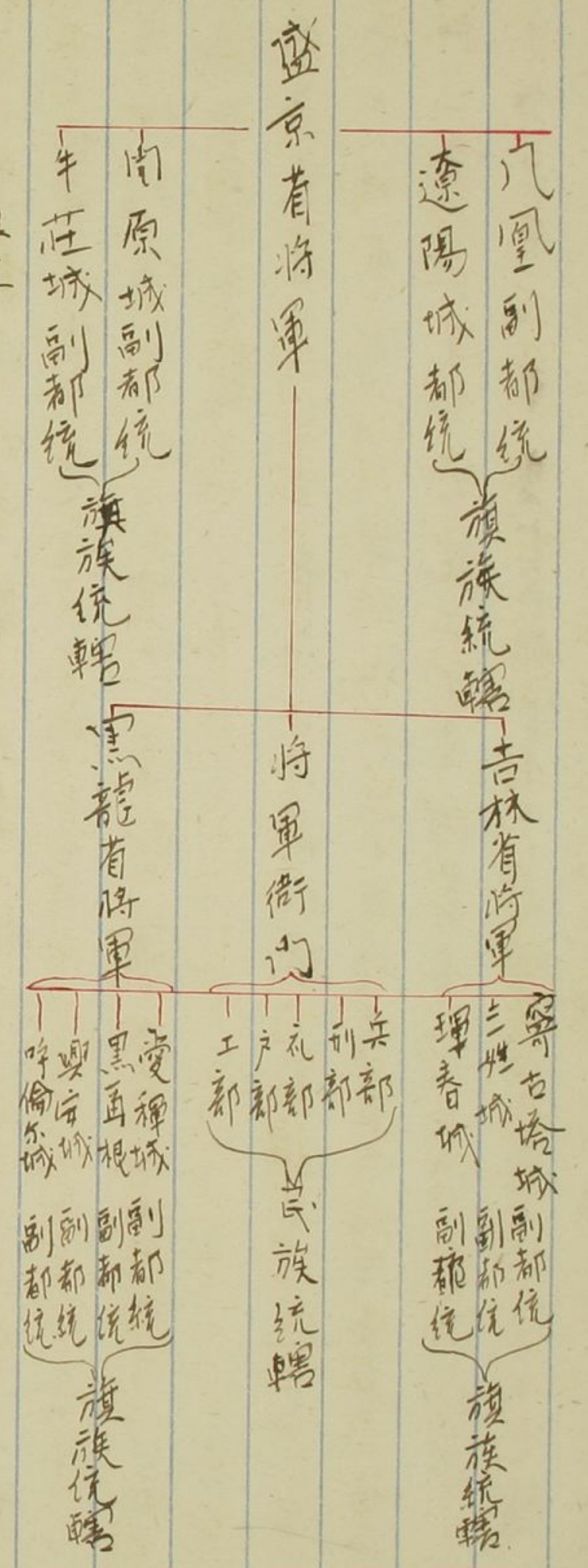
和帝ハ哈爾濱克屯兵頭長、特号ヲ兼帶ス
以上揚子所簡明ナラシムル為メ、哈爾濱總督ノ位置ヲ因説スルハ
次ノ如シ



夫レ滿州ハ清國ノ帝室愛新覺羅氏勳業地ニシテ世人之ヲ東三省
ト稱ス蓋シ全州ヲ分ケテ三個ノ大行政區画即チ盛京吉林黑龍江
ノ三省ト為スカ故チ各者ニ將軍ヲ置キ首下ニ城アリ副都統ヲ置
ク而シ其人民ハ八旗ノ制ニ由リ今ニ至ルマデ尚ホ特選ヲ受テ換言スル
旗族ハ一種ノ屯田兵ニシテ一定ノ年間限兵役ニ服ス外土地ヲ耕ス
モ貢租ヲ納ムル義務ヲ負ハル者ニシテ恰モ露國ハ哈爾濱
屯田兵ハ異ルナシ

今ヤ清國政府ハ露國ノ刺激ニ遇ヒ大ニ滿州ヲ開發スル必要
ヲ感シ稍旧時ノ制禁ヲ解キ支那本部ヨリ、物任民ヲ勸誘シ領
土保護ヲ與ヘテ滿州ニ移殖スルカ故ニ其施政機關ヲ變更スル
モノニシテ足ラストモ凡古来ヨリ屯田地ノ施政機關トシテ設ケタル
軸即チ盛京吉林黑龍江三省ノ組織ニ至テハ依然トシテ其
威力ヲ保有シ敢テ更改スル處アルナシ
滿州施政機關ハ之ヲ露國ノ總督府ニ比スレハ其權力ノ遠ニ
卓越スル處アルヲ觀ル
抑モ盛京者ハ三省中ノ首府ニシテ其將軍ハ宗室家ヨリ出ラズ之レニ任
ルル常トス將軍衙門ハ兵刑礼工ノ五部ヲ置キ以テ清國ノ亦ニ
政府ヲ構成シ吉林黑龍江両省將軍皆制ヲ盛京省將軍ニ
仰リ盛京省將軍盛京省將軍タルト同時ニ他二省ノ將軍ヲ統轄
シテ左滿州ノ兵制ヲ統テ他二省ノ將軍ハ各統テ副都統ヲ歴テ旗
兵ヲ統轄シ三省内ニ散在スル各旗ノ民族ハテ盛京省將軍衙門ノ

統制の端々各地方に施設機關ありテ之を謀る
 上記記載を所簡明ナラシム為之ヲ因説スルハ次ノ如シ



以上清露兩國ノ例證ヲ照査シ奉ルニ 地方長官^{權限} 輕重^{權限} 旗族ノ主在ナリト是凡
 其組織ニミリテ 殊ト符節ヲ念ルカ如シ 嗚呼 專制國政府ノ夏政
 國制ナリシテ 委クルモノ ナキカ 故ニ其動作洗滌能ク 國家百年ノ長計

ヲ正メ 國威宣揚スルニ 能クテ 主憲政體ニ 勝レルモノナリ 然レモ 主憲政
 府ト是凡 澤ノ 興隆ノ 興隆ヲ 發シテ 西ニシテ 州用スルニ 能クテ 天下ノ 尊貴カセ
 スニシテ 其功ヲ 収ムルニ 今ヤ 海外 移住ノ 必要ヲ 論ズモノ 其 聲 響 聳ルトシテ
 尙ニ 輿論ヲ 驚トス 執政府 寧此 機ニ 乘シテ 尚 樞 密 府ヲ 設ケル
 ノ 計ヲ ナシテ 以テ 護國ノ 任 務ヲ 尽スニシテ 忽ニ 俄ニ 着目 西伯利 鐵道ノ 布
 設 工事ノ 日ヲ 進マツテ 其 安ヲ 道メ 滿州ノ 漠野ニ 亦 年々 出テ 之ニ 採 掘ノ
 事ヲ 尚^カ 進^スマツテ 東洋ノ 局面ニ 大 變 動ヲ 發セシム 夫レ 近ニ アラシカ 我北
 海道ノ 兵備ト 尚 樞 密 府ニ 宜ニ 進眉ノ 意ニ 迫ルニ 至ラベシ 今ニシテ 尚 樞
 密 府ヲ 設ケ 北海道ノ 勿論 日本 全体ノ 國利 民福ヲ 増進スルニ アラサ
 シヨリ 我 隣 邦ノ 事ヲ 獨リ 專欲ヲ 逞フセシムニ 至ラニ 是レ 尚 樞 密 府
 ノ 設置シ 機 敏 事ニ 從フ 名 勢 ナル 所以 ナリ

第二章 尚樞密府ノ組織権限
 并ニ北海道ノ行政区画
 北海道ノ面積大約六千九百十八方里ニシテ 其 中 全 面積ノ 四分一 許ニ あり

ナリ且現行官制之依ニ北海道移民政界内閣司命セル所ニ極ル故ニ内
閣勅諭凡毎々其施政ノ方針ニ影響者ヲ生ズベシ主務大臣其人ヲ是
ニシテ尚其余波ニ北海道施政極端ニ及ビテ長官ノ責更ニ見ルナ
シトセズ是レ豈北海道ノ沈滞ヲ固執シ其兵備ヲ充實スル所以ノ本領
ヲ得タシモトシフベシヤ是等ノ禁ヲ臨ケト欲セバ固執總督ヲ天皇ニ
直隸シ親任官トナシテ内閣以外ニ獨立セシメ北海道ノ移民政界ハ
之ニ一任シ成ルベク政務ノ勅諭ヲ受ケテトサルコトアリ而シテ其ノ輕重ヲ
計較シ直キモノト直裁リ仰キテ復之ヲ處シ其輕キモノハ其專斷ニ
出シ急シ既ニ第一ニ專斷揚ケ先清露ニ固ニ宜例ニ徴スルニ北海道ノ
施政極端ニ此レ如キ權限ヲテフルハ宜キ事不考ナラザルヲ知ル至今日
於テ此大專斷ヲ廢シ盛ニ移民兵備軍ヲ講ズルコトアラズニハ他日清
露露就兵ノ專權ヲ防クニ足ラザルヤ明カナリ論者或ハ云ハシ立憲政界下
ニ斯レ如キ專制極端ヲ卷セシムベキコトアラズト云ヒ然リト是レ論者
ハ一ツ知テ其ノ其ニツ知ラサルモノナリ着ヨ北海道ノ未ダ代議士ヲ選出

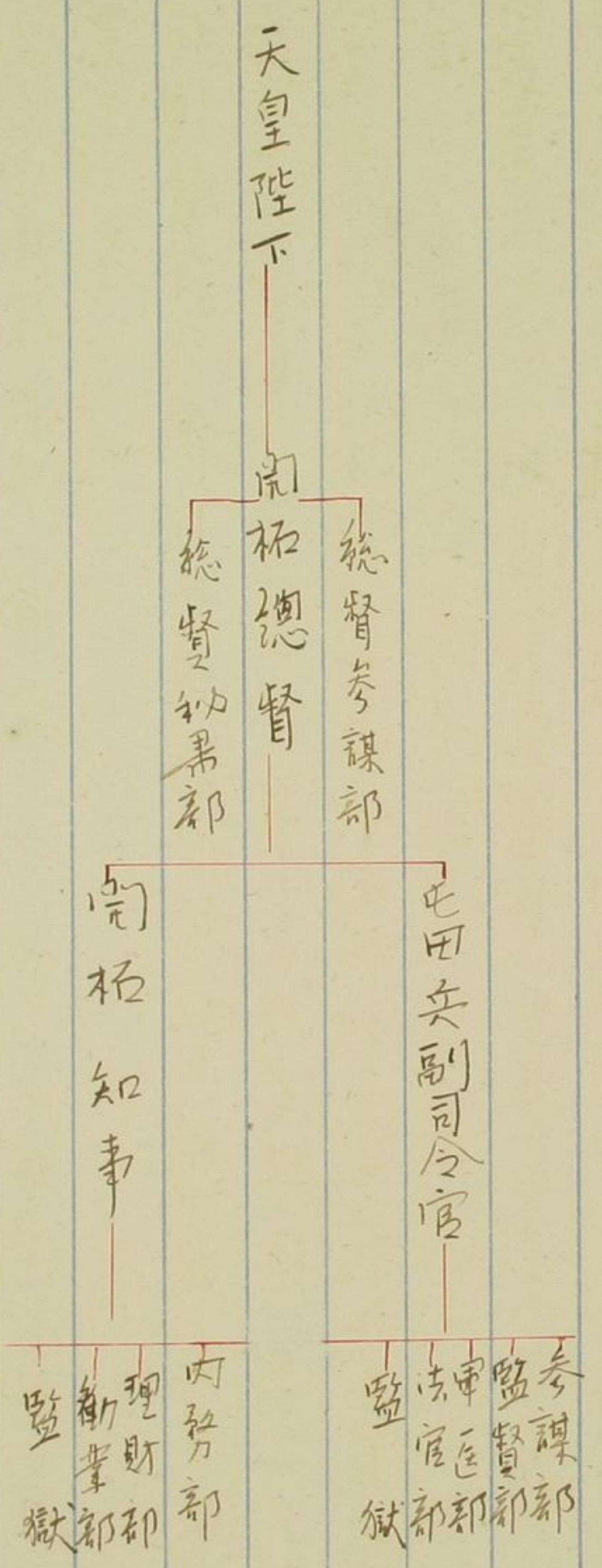
スル權限ヲ有セサルコトアラズヤ其内閣ノ地方議會ノ設ケテ其コトアラズヤ
之ヲ要スルニ新開ノ土地ニ屬シ特制ヲ要スルモノト見認ルル故ニ其
ナニテ特制ヲ要スルニ既ニ王下ノ公論ナリ然ラズ今固執總督ノ
權限ニ此ノ權限ヲ以テスルハ即チ輿論ニ違フテ施政ノ方針ヲ定ムルモノト
云フベシ且ツ之ヲ外國ノ地民制度ニ徴スルモ彼ノ立憲國ヲ以テ有ルナ
ル莖ノ印度又ハ濠州ニ於テ仙國共和國ノ安南ニ於テ皆專制極端
ノ設ケアラザルナシ彼我其極端ヲ異ニテ其後新開ノ土地ニ特制ヲ設
ケルコトアラズニハ行政極端ヲ洗滌セシムルニ克ハサルハ古キコトナリ
豈獨我北海道ニ是レカ例外ナクベシト云フヲ得ンヤ論者又云
ハ今日固執總督府ヲ設置シテ其總督ニ此レ如キ至大權限ヲ
授クルハ固執總督府ノ設置ニ此レ如キ高士層巨類ノ警覺ヲ要シ
從テ其弊害亦大ナルモノナレト豈夫レ然ラズヤ總督府ヲ設ケル
以上時期ニ依リ自然特別議會ヲ創設スルニ必要ナルベシト云
是レ只一體議會法ニ依リ固キモノニヨリ集事拾シ之レカ例外ヲ制定

之ニ過キサルベシ且つ如何ニ北海道ニ特制ヲ要スルモ憲法ノ範圍ヲ脱シテ法規
 ハ之ヲ制定スル能ハサルナリ憲法ヲ守ルニ由テ條々同リ國家ノ威厳ハ亦嚴出モ毎
 年撥充シテ帝國議院ニ其職ヲ歴ベシ破棄ノ疑有レテ超過又
 ハ撥充ノ外ニ生ラズ支出アルハ後日帝國議院ノ承認ヲ求ムルコト
 要スト故ニ統督府ヲ新設スル為ニ若クハ新設シタカ為ニ要スル費用
 ハ先ニ帝國議院ニ其職ヲ歴ヘカラス豈ニ周知便者時ヲ函詢ス
 ルニ苦心アラシヤ

開拓總督府ニ總督參謀部統督秘書部ヲ置テ將官並ニ勅
 任文官各一名ヲ置テ總督ヲ輔翼シ兵政民政ヲ統督ス

屯田兵司令官ニ參謀部監督部軍醫部法官部監獄ヲ
 置テ開拓知事廳ニ内務部財部勸業部監獄ヲ置
 ク

以上掲ケル一カヲレテ簡明ナラシムル為ニ之レカ系統ヲ圖説スル此ノ如シ



兵村組合法草案

第一章

總則

第一条 兵村組合ハ組合員ニ事業ノ資（金ヲ貸付シ及勤
便貯金ノ便宜ヲ得セシメ有事ノ日ニ當リ各兵ヲ内顧ノ患
ナカラシムルヲ目的トス

第二条 組合員ノ組合ニ對スル責任ハ規約ノ定ル所ニ依ル

第三条 兵村組合ハ無期トス

第四条 兵村組合ハ某兵村組合ト称スヘシ

第五条 兵村組合ノ区域ハ中隊毎ニ限ル但シ中隊以上

ニ連接スル兵村ニアリテ中隊中隊ヲ以テ一ノ兵村組合ヲ設ル

ヲ得ル場合ニアリテ司令官ノ認可ヲ受クヘシ

組合員ハ該兵村内ノ居住者ニ限ル

第二章

組合ノ創立及組織

第六条 兵村各戸ノ戸主ハ組合員スルモノトス

第七條 兵村組合ヲ創設セシトスルハ五戸ニ付一名ノ割ヲ以テ委員互撰シ創業者總會ニ於テ規約ヲ議定シ役員ヲ撰任スヘシ
創業者總會ハ委員五分ノ四以上出席スルニ非ラザレバ開クコトヲ得ズ
設立後ノ總會ニ於テ委員互撰スルハ五戸ニ付一名ノ割トス

第八條 規約ノ改正ハ委員三分ノ二以上ノ多数決ヲ要ス

第九條 規約ハ此組合法ノ規定ニ抵触スルコトヲ得ズ

規約ニ此組合法ニ規定スル外左ノ事項ヲ掲ク

- 第一 組合ノ名称及事務所
- 第二 總會招集ノ手續
- 第三 組合ノ区域
- 第四 組合ノ負債貯蓄預リ高及預リ金高最高限度
- 第十條 規約ハ組合長ヨリ大隊長ヲ經由シテ司令官ニ差

出シ認可ヲ受リヘキモノトス
規約ヲ改正スルトキ亦同シ

第十一條 組合長ハ前條ノ認可ヲ受ケタルハ規約組合員名簿役員氏名ヲ記載シタル書面及組合印鑑並通ラ制表之一通ヲ大隊長ニ送付シ司令官ニ呈スヘシ但シ組合員名簿ニハ組合員ノ捺印ヲ要ス

前項ノ事故変更スル中モ亦前日簿ノ手續ヲナス可シ

第十二條 大隊長ハ第十一條ノ書類ヲ保存シ執務中ハ組合ニ閲覧ヲ許スヘシ

第十三條 組合長ハ組合設立ノ年月日規約ノ大略役員ノ氏名ヲ三十日間組合事務所前及兵村内ニ掲示スベシ

第十四條 規約ノ改正及役員ノ更任ニタル時モ前項ノ手續ヲナスベシ

第十五條 第一條ノ目的ヲ達スル為メ組合員ハ在ノ資金ヲ払ハクベシ

第一 加入金

加入金ハ規約ニテ其金額ヲ定ムベシトモ明治廿三年以前ニ移住セシ組合員ハ金付田明正廿四年以後移住シタル組合員ハ金付田ヲ下ルルヲ得ズ

第二 持分

持分ハ規約ニ於テ其金額ヲ定メ右金額ヲ達スルマテ組合員ヨリ毎月之ヲ拵ルモトス但し毎月ノ拵込金額ハ規約ニテ其程度ヲ定ム

持分ノ金額ハ明治廿四年以後ニ移住セシ組合員ハ金付田ヲ取下限トシテ定ムベシ

第十六条 組合ノ計算ハ年二回トシ規約ニ於テ其時日ヲ定ムベシ

第三章 組合及組合員ノ權利義務

第十七条 農村組合ノ權利義務及組合ト組合員トノ權利關係ハ規約ニ於テ定ム所ニ依ル

第十八条 組合ノ損益ハ組合長ニ於テ毎計算期ノ貸借對照表ハ損益割當表ヲ總會ノ認定ヲ經テ之ヲ組合員ニ割當スベシ

但し損益割當方法ハ規約ニ於テ定ムベシ

第十九条 組合ハ組合員ノ限リ社又ハ除名セサル限リ其持分ヲ拵戻スルヲ得ズ

第二十条 組合ニシテ組合ヲ脱セシトスルハ總會ニ於テ委員五分由以上ノ多数決ヲ得且ツ司令官ノ認可ヲ得ニアラサレハ良社スルヲ得ム

第二十一条 組合ヲ脱スル者ハ其退社前ニ係ル組合ノ債務ニ對シテ其責ヲ分擔ス

第二十二条 組合員ハ其持分ヲ他人ニ讓渡スルヲ得ズ但し其相続人ニ限リ總會ノ議決ヲ經テ組合員タルノ權利義務ヲ承継スルヲ得

第四章

役員及職務

第廿三条 組合ニ在リノ役員ヲ置キ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ撰任シ其任期ハ一年トス

組合長 一名

會計役 二人

監査役 三人以上

第廿四条 組合長ハ組合ニ係ル裁判其他ノ事件ニ外

部ニ對シテ組合ヲ代表スルコトヲ得

第廿五条 組合長ノ組合ヲ代表スル權限ハ規約ニ於テ定ム

第廿六條 組合長ハ會計役ハ組合ニ必要ナル権限ヲ備付ス

第廿七條 組合長ハ會計役後疾病其他ノ事故ニ依リ職務ヲ

執行能ハザルハ代理ヲ置クベシ

第廿八條 監査役ニシテ組合長又ハ會計役ヲ兼テ組合長ハ

會計役ハ監査役ニ兼スルコトヲ得ス

第廿九條 監査役ハ組合長又ハ會計役ニ對シテ其執

務ヲ監察シ必要ト認ムルハ報告ヲ要スル自身ニ又ハ

組合員ニ對シテ組合ノ帳簿及書類ヲ檢閲シ金庫現

在金及有價証券等ヲ檢査スルコトヲ得又決算

書及貸借対照表及損益割当表等ヲ檢査シ總會報

告スベシ

監査役ハ組合ノ利害ニ於テ必要ト認ムルハ臨時總會

ヲ召集スベシ

第三十條 其他監査役ノ任務ハ規約ニ於テ定ムベシ

計役ノ職務ヲ停止スルコトヲ得

第三十一條 總會ヲ開クヘキ場合ハ規約ニ於テ明示スベシ

第三十二條 總會十分ノ二以上ノ組合員其目的及理由ヲ示シテ請

求書ヲ以テ總會ヲ召集スルハ組合長ハ之ヲ召集スベシ

第三十三條 組合員ハ總會ニ於テ業務ノ方針貸借対照表及

損益割当表ヲ審査議定ス

第三十四條 左ノ事件ハ會計審判ノ總會ニ於テ豫メ之ヲ議定スルコト

必要トス

一 員債金高ノ限度

二 若組負ノ貸借之得ヘキ金高ノ限度

第五章程 組合ノ監督

第廿五條

其村組合ノ業務ハ第一次ニ於テ中隊長第二次ニ於テ大隊長第三次ニ於テ司令官之ヲ監督ス

第廿六條

貸借対照表及損益割当表ハ總會ノ議定後一週間以内ニ大隊長ニ呈スヘシ

第廿七條

大隊長ノ認可ヲ受クベシ

第廿八條

大隊長ハ一月一回大隊中ノ士官ニ命ジ組合ノ帳簿及財産等ヲ検査セシムルヲ得

第廿九條

司令官ハ臨時検査官ヲ派遣シテ組合ノ業務ヲ監査セシムルヲ得此場合ニ於テハ組合長ハ派遣官ノ要求ニ應ジ帳簿書類等ヲ其閲覧點檢ニ供

スベシ

第四十條

大隊長ハ必要ト認ムルニ付組合長及會計役ヲ解任シ臨時總會ヲ召集シテ改撰ヲ命ズルヲ得

此場合ニアリテ解任ヲ命セラレタル組合長會計役ヲ再撰スルヲ得ス

第四十一條

此組合法執行ニ関スル細則ハ大隊長之ニ定ム

第四十二條

此組合法ハ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

明治廿四年四月

屯田兵組織改正ニ関スル要領

第一項

屯田兵役ヲ現役豫備役後備役及補
充兵役ニ区分スル事

従来屯田兵役ハ子孫相續キ永世兵タルノ組織ナリシカ新組
織ハ兵役ヲ通計二十年ト定メ之ヲ三種ニ区分セリ即現役
三年豫備役四年後備役十二年トス而シテ滿期後年々補
充兵役ニ服シ戦敗若クハ事變ニ際シ召集セラルル事トナレリ且シ
移住估年ヲ経ルニ從ヒ軍事上ノ價値漸ク低減スルヲ以テ次第ニ
其管理ヲ解キ経費ヲ節減シ又一方義務ヲ輕減シ以テ益々就
産上ノ結果ヲ確實トシテメトスルニアリ但兵役期限間ニ於テ
年齢満限或ハ疾病事故等ニテ免役トナリシモノハ其子弟タルモノ
残期間兵役ヲ相續スルノ義務ハ召募ノ際家族連帶誓約
セシムルナリ

第二項

各役兵管理法節約ノ下

從來ノ制ニ依シハニ乃至四中隊ノ為メハ一ノ大隊本部ヲ備工中隊ノ増加ス
ルニ心シ大隊本部ノ教モ亦從テ増加セサルヘカラス然リト雖モ其
限リアリ素ヨリ如此充タシムルハ一師ハ是ヲ以テ現今ノ組織ニテ毎年
歩兵二中隊宛増殖スルモノトセハ其現役及豫備役合セラテ四中隊ノ為
メ當分四個ノ大隊本部ヲ備エテ之ヲ分轄セシムル中隊幹部ノ如
キモ力メテ經費節減ノ主旨ニ基キ移住後一ラ年間ハ全員ヲ備
フルモニケ年目ヨリハ凡其半ニ減シ又豫備役即四年目ヨリハ
凡現役定員三分ノ一ニ減ス第八年目即後備役在ラハ只
一名ノ由日長之ヲ管理スルハ然リト雖モ戰敗編制ノ為メハ多
數ノ士官下士ヲ具エサルヘカラス是ヲ以テ戰肢士官ノ要員ニ充
ンカ為メ下士中才幹アルモノニシテ技能學術共ニ優劣ナシモノヲ
撰抜シ特別軍事學ヲ備メシメ以テ豫備後備ノ士官ニ充テ
ス又下士ノ要員ハ豫備後備ノ役ニアルモノヲ以テ之ニ充テ尚不
足スルハ上等兵ヨリ漸次進級補填セントス
騎、砲、工、兵ハ當分一定ノ幹部ヲ具エ現役豫備後備兩兵ヲ併

轄セシム

各兵種ノ後備役兵ハ別ニ後備兵司令部ヲ置キ之ヲ管理
セシメントス

第三項

兵種ノ區分配合及兵力

從來ハ只歩兵ノ一種ノシナリシカ新組織ニテハ歩騎砲工ノ兵
種ハ為シリ是歩兵漸クヨメソニケ年ヲ積算セハ稍多
數ノ兵力アルニ至ル是ヲ以テ戰術上欠クヘカラス他ノ兵種ヲ
適當ニ交工軍事上ノ結果ヲ完全ナラシムル極メテ必要ナシハ
而シテ其毎年ノ移住戸數ハ目下ノ如ニテハ歩兵四百戸騎兵四
十戸砲兵工兵各三十戸合計五百戸ナリトス

第四項

銃、彈、藥、其他出師準備用ノ
諸品ハカメテ之ヲ充實ニ被服
器具ハ質素堅強ヲ主トスル

第二項ノ如ク幹部ノ如キハ教育及授産誘導ヲ為メ必要ナシ程
度ニ心シ漸ク節約シテ費用ノ減少ヲ圖ルト雖モ兵ノ兵ヲハ欠ク可ラ

此銃火彈藥ノ如キハカテ完全ナルモノヲ備エルトス其他出師軍
備ニ要スル諸兵具材料何レモ漸次所要ノ員數ヲ具備シ又
被服器具ノ如キハ專ラ實用は半年ヲ主トシ品質ハカテ善
良ノモノヲ用ヒ永久ニ堪ルヲ主眼トス

第五項 軍事教育ノ方法ヲ改メシフ

從來屯田兵軍事教育ハ移任後三月連続施行シ爾后ハ毎月
教回施行スル定メナリシカ新案ハ移任ノ当初教育月間連続軍
事上ノ教育ヲ專備ニ新兵ノ錬成ヲ完タカラシメル後ハ專ラ拓地
開墾上ノ業ヲ備メ此間只教回ノ復習ヲ為スルニ向シテ又二期農
業ニ從事スルヲ得サル候ニ於テ更ニ數ヶ月ノ復習ヲナカシム第ニ
第ニ各期ノ各期モ亦如此數回餘ノ年月ハ上下專ラ開墾土地事
業ニ苦心ヲ全注セシメ只豫備後備役間毎年數回復習
ヲ為サシムルノ是レ新法教育法大ニ異ナル所ニシテ新法ニテハ
兵ヲ錬ルノ向ハ上將校ヨリ下兵卒ニ至ル迄一心精勵以テ熟練
ニ至ルヲ期シ卒業上ハ亦上下心ヲ合セ專ラ農業ニ從事シ以テ就

立産ノ結果ヲ確實ナラシメ所謂兵農兩ラ全キヲ得セシメントス
ルコアリ

第六項 就産上ノ保護將來ノ方針

從來就産上ノ事ハ軍事教育月間ニ於ケルカ如ク幾多クノ年月ヲ
経ルモ依然旧レ依リ勸導大智自負ニ未リシカ実験ニ依リテ之
レヲ着レハ却テ兵民ノ依賴心ヲ生シ独立治産ノ精神ニ富マ
カハ守ノ矢アルヲ知ル依ラ將來ハ移任ノ者初ホタ東西ヲ采
セサルハ伐木排水開墾雨墾播種收穫養蚕製麻養豚其他天候
風土等ノ別スル諸準備方法等ヲ指導スルニ止メ西三年ヲ経ルニ從ヒ
漸ク之ヲ習得スルニ至ルハ漸次其保護指導ヲ止メ独立治産ノ
精神ヲ喚起シ進取自治ノ氣風ヲ養成セシメトス又從前
保護ノ目的ヲ以テ誘導シ未クシ共同事業ノ如キモ將來ハ兵村
會ヲシテ之ヲ管理セシメ其事業ニ關スル收支豫算決算一會
議ノ任スル所トシ銃馭者ハ四軍ニ之ヲ監視自スルニ止メカテ事業
ノ發達ヲ期セシメトス

第七項 會計事務改革ノ一
従来司令ア、會計部各隊ニ給与官ヲ置キ以テ經理計
算ノ事務ニ服セシメシカ新組織ニテハ司令ア及各隊ニ軍
吏ヲ置キ其經理事務ニ服セシメ別ニ監督部ヲ置キ以テ司令
部及各隊ニ於テ經理計算事務ヲ指揮監督セシムル
ト為セリ

七田兵用地ノ関スル事項

又し七田兵ハ一方北海道警備ニ任シ一方北海道拓地ヲ賦トスルモノ
ナルヲ以テ其召募ニ心ヲ移住スルニ當リテハ法律第七十九号七田兵土地
給与規則ニ基キ土地ヲ給与スルモノニシテ之ヲ分テトス

其一 耕耘地

耕耘地ハ一戸凡リ一万余坪宛給与スルモノニシテ即移住ノ当初迄
常五千坪ヲ以テ三分ノ一ノ地ニテマタル一地區ヲ渡サレテ後該地開墾
効ヲ得エシモノヨリ逐次五千坪ヲ渡サルナリ自餘ノ五千坪モ亦同一年給
トス

其二 兵村公用財産

兵村公用財産ナル者ハ全ク法律第七十九号ノ制定ニ基キ各兵村ニ依
リ与セラルルモノニシテ其管理利用法ハヲ規定スルハ七田司令官ノ推
内ニアルノ明文モ亦法律ニ在ル所トス而シテ其公有財産ハ主トシテ
兵村比隣ノ山林ホヲ以テ之ニ充テルモノニシテ其面積ハ一戸凡一万余千
坪ノ割ヲ以テ給セラルルモノトス而シテ現今七田兵司令官ノ規定セル所ニ依

レハ其取扱區分ハ即建築及新炭用林國防林林場耕地市街地是
レナリ然リ而共利用法ハ即此田被備役満期後出師準備ノ為メ
給与訪出保存費其他兵村公共費途飯令ハ子校維持費村
道備築費等補給ニ供スルモノニ又之ヲ管理利用スル為メ要ス
ル所ノ負担ハ此田兵之ヲ分任スヘキ規定ナリトス

所用面積ノ計

○此田兵之給与スヘキ土地ハ以上二種ノ別アリ之ヲ共計セハ即一戸凡ニ萬坪ノ
刻ニシテ二百戸ノ一兵村ノ為メハ即千六百方坪ヲ要スヘシ其他練兵場射
的場及道路敷地等凡一中隊ニ付十方坪ヲ要スヘシ

増殖地撰定ノ一

○此田兵増殖ハ従来經費支出關係ニ依リ其戸數一定セサリシモ今其四
年ヨリハ毎年歩兵四百戸騎兵四十戸砲兵工兵各三十戸合計五百
戸此増殖ハ既ニ定ムラル所ナリ然レモ今宇内ノ形勢カ大ニ北海道
兵備擴張ノ必要ト移民増殖ノ勢急ヲ促進シ朝野内外大ニ
輿論ヲ喚起セシムルニ至リタシハ尙將來進テ之ヲ擴張増殖スル必要

ヲ感スヘシ今試ニ本道ノ兵備一師團ヲ要スルモノト仮定セハ本道今日ノ
民力到底徴兵ノ義務負担ニ堪エストセハ執カレ此田兵増殖セカレハ
カラス果シテ然リトセハ一師團ノ兵數(後ニ歩ヲ退キ内地師團ノ三分ニ
兵數ヲ有スル師團トスルモ)約二万人ヲ要スヘシ而シテ現在又尔后兩三年間
ニ得ル兵數ヲ合セテ五千トスレハ残り一万余人ノ之ヲ毎年一千五百戸此移
住スルモノトセハ即年々要積四千五百方坪之ニ本部練兵場道路等ノ
敷地ヲ七十五方坪トスレハ合計年々ノ要積四千五百七十五方坪十ヶ年
ニシテ四億五千七百五十方坪ヲ要スヘシ而シテ其ノ母戸餘ルル所ノ三五方坪ノ内
一万余千坪ハ耕地ニ適スヘキ地即直チニ開墾シ得ルカ又ハ多少排水ノ
后耕作ニ得ヘキ土地ナルヲ要シ他ノ二万余千坪ハ山林丘阜沃炭地等直
チニ耕作ニ適セサルモノナリトハ故ニ耕作適當地ハ總計無慮ニ億
二千八百余方坪ヲ得ルハ足リトス然レモ北海道廳ニ於テ昨廿三
年迄ニ調査ニ得シ殖民地ノ主タルモノ即石狩十勝釧路根室北見
天塩膽根後志ノ八ヶ国ニシテ總計廿八億七千餘方坪ヲ有シ其内
八億九千六百餘方坪ハ樹林地及草原地ニ直チニ耕作ニ適スヘキ

于他ハテ高直シテ地味稍劣者ニ位ニルモノ十二位ニテ其地味亦一カ坪及泥土地
地ニシテ大ニ排水溝ヲ穿テ或ハ堤防ヲ築キ中ノ地ノ改良ヲ施スルコト
サレハ所収地ニ在リテ其地味亦一カ坪及泥土地ニ位ニルモノ十二位ニテ其地味亦一カ坪及泥土地
閑望し得キ坪数、即ち二倍ニテ其地味亦一カ坪及泥土地ニ位ニルモノ十二位ニテ其地味亦一カ坪及泥土地
ト一般移住民ヲ待ラズメテ閑望スヘキナリ況シヤ日ヨリ渡嶋千嶋ノ三ヶ国ハ未
タ調査ヲ終ス加之上地積、他地區ノ積小ナルモノハ之ニ算入セサルコトテ實際此
上ノ坪数ノ外ニ高大ナル短式道等ノ地積ヲ有スヘシ然レハ人或ハ云ハシ屯田兵移
短ノ為メ一般移住民ノ進路ヲ妨害スルナキコトト是レ屯田兵ト一般移
住民トノ性格ノ殊別アルコト由ハサル起因スルナリ抑屯田兵ハ凡リ配備上樞要地ニ
置クト虽モ其ハ榛莽未開地ニ屬ス蓋シ一般移住民ハ可成鉄道線路若
シクハ沿岸沿津ノ便ヲ頼ルコト必西オトスレバ屯田兵ハ必オトスレモ然レハ其要セ
サルモノ也官ノ保護面ヲ以テナリ故コト地積定自的モ亦自然同シカラス
且屯田兵ハ配備上一團ノ地域ヲ要スルコト一般移住民ノ比ニアラス故ニ軍界上
欠リヘカラサルニ一の場合ヲ除クハ外概シテ其要スル地多シトス故ニ一般移住
者ノ為メハ却テ先導誘致ノ實効ヲ奏スルモノト云フヘキナリ

屯田用地普通移住民必要ニ通リ返地セリ列

○近頃説ヲ為スモノアリ曰ク屯田兵ハ其ノ適良地ヲ取り置キ普通移住民ノ
為メ大ニ不便ヲ感スルナキヲ得シヤト云レバ相ノ見ヲ以テ之ヲ云ヒハ或ハ然レ感
情モ未タ無理ト云フヘカラスト虽日本道全体ノ上ヨリ之ヲ察シ且兵備
上ノ要點ヨリ之ヲ見シハ前項ニ述ルガ如ク散ラセハ其味々スルカ如キ事ナキ
ハ既ニ知ハ然況シヤ從來ノ如キ年々増殖ノテ數モ一定セズ前途未タ期シ
難キ地也ニシテ普通移住民必要ヲ感セシモノハ其必要ノ度迄屯田用
地ヲ止メ普通移住民ノ需メニ心セシモノ蓋シ一ニシテ足ラザルナリ例之渡島鶴村
(凡ソ九百廿八坪) 後志ノ利別原野(凡ソ千四百坪) 里松内(凡ソ三百五十坪)
赤井川(凡ソ千七百坪) 石狩ノ渎(凡ソ四百坪) 天塩ノ小平基志木(凡ソ三百坪)
如キ是レナリ

屯田見込地所要外ノ土地ハ漸次返地ノ一〇又從來屯田兵ヲ置カセト
スルニ右ノ土地統上ノ關係ヨリ先ノ概畧見込地屯田兵用地ヲ定メ豫
定ノ量ノ后兵屋ヲ建築シ移住ノ后次第之ヲ各戸給スルコト當リ事ナク過
不足アルハ到底免シル所トス依テ其過不足ハ測量經費ノ許ス限リ成

ルヘリ迅速ニ精測審算ノ剩餘アリシコト返地ニ不足ハ尚追給セシムルハ素
ヨリ論ヲ疾々サル所トス故ニ此点ニ就テモ亦前項ノ如ク普遍得比ノ
進路ノ關係ナキヲ知ルヘキナリ

比田兵擴張ノ必要

第一 世海防ニ備フ法ノ必要

世海防ハ面積凡六千九百十、方百里ヲ有スル大島ニシテ廣原平野多ク
土地肥沃沃山、礦物森林、富シ河海ニハ水産亦西ノ多クト雖月
ト高人口僅カニ四十有金万ニ過コズ然レモ近攻世海防ノ富強ニ注目ナルモ
漸ク多キニ至リ政府亦大ニ將大勳侯帥以テ拓地強兵ヲ力ムルモノナレハ
將來強ク人口増殖シ遂ニ一大強國ニ成トスルヘキハ誠ニ明ナナリ是
ナレテ取扱カノ急務ニ使ヒ国防御ヲ自衛ノ道亦大ニ其擴張ヲ謀
ラサル可ラサルハ論ヲ疾々サルナリ況ンヤ眼ヲ転メ比隣外邦ニ注ケハ
海防上ルルニ方針強兵ノ振作兵備ノ整頓其他陸道、海灣、事々
物々宜宜ハ現出スルコトノ一新ラ之ヲ見ルモ宜シ段々トシテ日モ尚是
ラサルノ勢ナリ於テヤ將東洋ノ向ニ要漸ク多クナリトス
トス天ノ氣々雨ヲサルニ備戸ヲ調鑠ハ豈深ク鑑ミサルヘケレヤ且夫シ
兵ノ特質莫タル要ニ謂フニ金カレテ之ヲ購フヲ得ス又一敗ニ之ヲ養フ
ヲ得ス必スヤ日コ重子年ヲ積テ後進ナラズヘキトシ然レモ人惑ハ曰ク

今のハ是し英通運輸、自備ハ八復若ロ、比アラス、宜ク也、是事アラ
レカ即中部南部、兵急ニ赴カシムルヲ、是ト豈夫レレヤ、我
國交通ノ具、我中其運輸ノ具、大和卷タル、陸道線、路ノ、實況ヲ視ル、線
路ノ内、或ル部、分ハ海岸、露出シ、一砲撃手ノ下、忽チ破壊セラル、ノ、患、心ヲ免シス
海路、依シカ、外敵ヲ受クル、常トシテ、敵ニ、海ヲ、専制セラル、ハ、亦、是、免シサル、旅ナ
ル、ヘリ、況レヤ、遠長、十、津、輕、海、峽、ノ、航路、アル、ヤ、到底、迅速、確實、英通運輸
ハ、望シテ、好ヘカ、ラ、サ、ル、ナリ、之、こ、反、シ、敵、ハ、四、用、海、上、ヲ、横行シ、北、部、我、ヲ、兵、急、心、ニ
シ、テ、南、部、ニ、出、テ、レ、所謂、出、没、機、初、ノ、利、得、ニ、ア、リ、我、豫、メ、之、ヲ、知、ク、難、シ、是
ヲ、以、テ、假、令、交通、全、シ、ト、ス、ル、モ、亦、漫、ニ、兵、ヲ、移動、ス、ル、ヲ、好、ム、サ、ル、ナリ、即、諸、ヲ
換、エ、テ、云、ハ、北、部、ヲ、守、ル、ニ、ハ、須、ラ、ク、東、部、ノ、兵、ニ、依、ル、ヘ、リ、中、部、南、部、亦、此、ノ
是、ヲ、以、テ、苟、モ、固、ホ、保、全、ヲ、謀、リ、固、家、長、計、ヲ、誤、ル、ナ、カ、ラ、シ、ク、期、セ、レ、ハ、ハ
少、ク、モ、之、守、御、ス、ル、ニ、是、ル、ヘ、キ、兵、カ、ヲ、備、ヘ、且、氏、ヲ、移、シ、振、地、興、産、以、テ、我
國、ニ、於、テ、日、以、テ、少、多、要、欠、リ、ヘ、カ、ラ、サ、ル、即、是、兵、ノ、次、員、ヲ、以、ル、ニ、便、ナ、ル、策、源、地
ヲ、造成、セ、カ、ル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、ナリ、是、亦、洋、形、勢、カ、也、海、陸、今、は、境、遇、於、テ、兵、備、ノ
核、法、最、モ、焦、眉、ノ、急、ニ、感、ス、所、以、ナリ

第二 世海兵振地強民、常急

世海兵ノ兵備、振地、強民、ノ、要、ハ、前、項、ニ、陳、フ、ル、カ、如、シ、而、モ、其、之、ニ、伴、ヒ、累、ク、少、多、也、
要件、タル、ハ、北、海、兵、振、地、強、民、ノ、核、法、最、モ、急、ニ、是、ナリ、夫、レ、世、海、兵、ハ、六、千、九、百、十、八、方、里、ヲ
有、ル、ル、一、大、島、ニ、シ、テ、昨、廿、三、年、迄、ニ、調査、シ、ル、シ、大、地、域、ノ、農、牧、適、当、地、ハ、實、ニ
廿、八、億、余、方、坪、ヲ、有、ス、尚、殖、民、探、索、ニ、於、テ、エ、サ、ル、海、陸、邊、界、ヨ、リ、三、ヶ、國、先、小
地區、ノ、農、牧、適、當、地、ヲ、算、ス、シ、ハ、蓋、シ、尚、數、十、億、方、坪、ノ、高、程、ヲ、有、ス、ル、ナリ、
此、ハ、一、月、ノ、水、源、開、發、初、ヲ、算、ス、セ、シ、モ、一、尚、未、タ、無、慮、二、億、方、坪、ニ、達、セ、サ、ル、ヘ、
シ、果、シ、テ、之、シ、ト、大、差、ナ、シ、ト、セ、ハ、實、ニ、僅、少、ニ、シ、テ、其、開、キ、ル、ハ、僅、カ、ニ、數、十、方、
ニ、過、キ、サ、ル、ナリ、此、ハ、内、ハ、移、民、興、産、固、家、長、計、上、ノ、必、要、ニ、迫、リ、外、ハ、國、土
保、全、獨、立、自、衛、ノ、策、衝、ニ、當、リ、日、ノ、月、ニ、兵、備、擴、充、ノ、急、ニ、感、ス、ル、倍、々、大、十
リ、夫、レ、統、リ、統、リ、ト、一、任、之、ヲ、守、御、ス、ル、ニ、是、ル、ヘ、キ、兵、急、ヲ、具、備、ス、ル、ニ、至、ル、モ
之、ヲ、養、育、フ、ノ、次、源、豐、富、ナ、ラ、サ、ル、ナリ、何、セ、シ、況、レ、ヤ、一、船、有、リ、ト、際、シ、海、路
兵、急、對、策、セ、シ、カ、養、兵、次、源、忽、チ、涸、竭、シ、テ、軍、實、支、支、ツ、ル、途、ナ
リ、全、道、四、十、方、蒼、生、亦、飢、餓、ニ、迫、リ、實、ニ、各、狀、ス、ヘ、カ、ラ、サ、ル、慘、狀、臨、ル、ノ
虞、ナ、キ、ヲ、係、セ、サ、ル、ナリ、是、ヲ、以、テ、兵、備、擴、充、ト、共、ニ、內、外、ハ、カ、ラ、サ、ル、モ、ノ、ハ

即此所以拓地強國之計也是しナリ此の如き事は後世に
改策ヲ採リ大之ヲ將大勳セシカ後其ノ經驗ニ依ルシ其勳果キヤ若シ
カラス人將々人カナル之ヲ獎勵セズ自死之ヲ放任セシ平ニ其軍ムヤ實ニ
後論シシテ到底世ノ趨向スル所ニ付テ能ハス殷鑑遠カラス一朝
子則ノ憂アラシカ情ヲ強ムノ憾ナキヲ僅セサルナリ是ヲ以テ之レシテ
守禦防備ノ具ト國民福ノ實ヲ舉グヘキ而個ノ目的ハ其所以兵界上
改界上須臾モ偏ニ廃スヘカラスナリ名實ノ方今守内ノ大勳ニ懸セハ西々
真ニ眉ノ一ト云フヘキナリ是レ兵備擴張ノ必要ヲ認公ルト共ニ備
セテ大ニ拓地強國ノ業ヲ成スル所以ナリ

第三

此の如き兵力及組織

此の如き兵力及組織は諸國に階入ヘカラスルノ理由ハ第一項ニ於テカカメシ今ナリ
テ其之ヲ御防スルニ足ルヘキ兵力ハ果シテ幾何ヲ要スルカヲ察スルニ目ハ
此所以人ノ口ノ比例ヲ以テ之ヲ見シハ夫レ僅シナリト云フモ其土地ノ廣サヲ
以テ之ヲ見シハ帝國全土ノ四分一強(四國九州沖繩並ニ了阻岐佐辰小
豆原島ヲ在セタルモノヨリ尚二千三百〇三万里ニ廣シ)ニ居ルモノニ

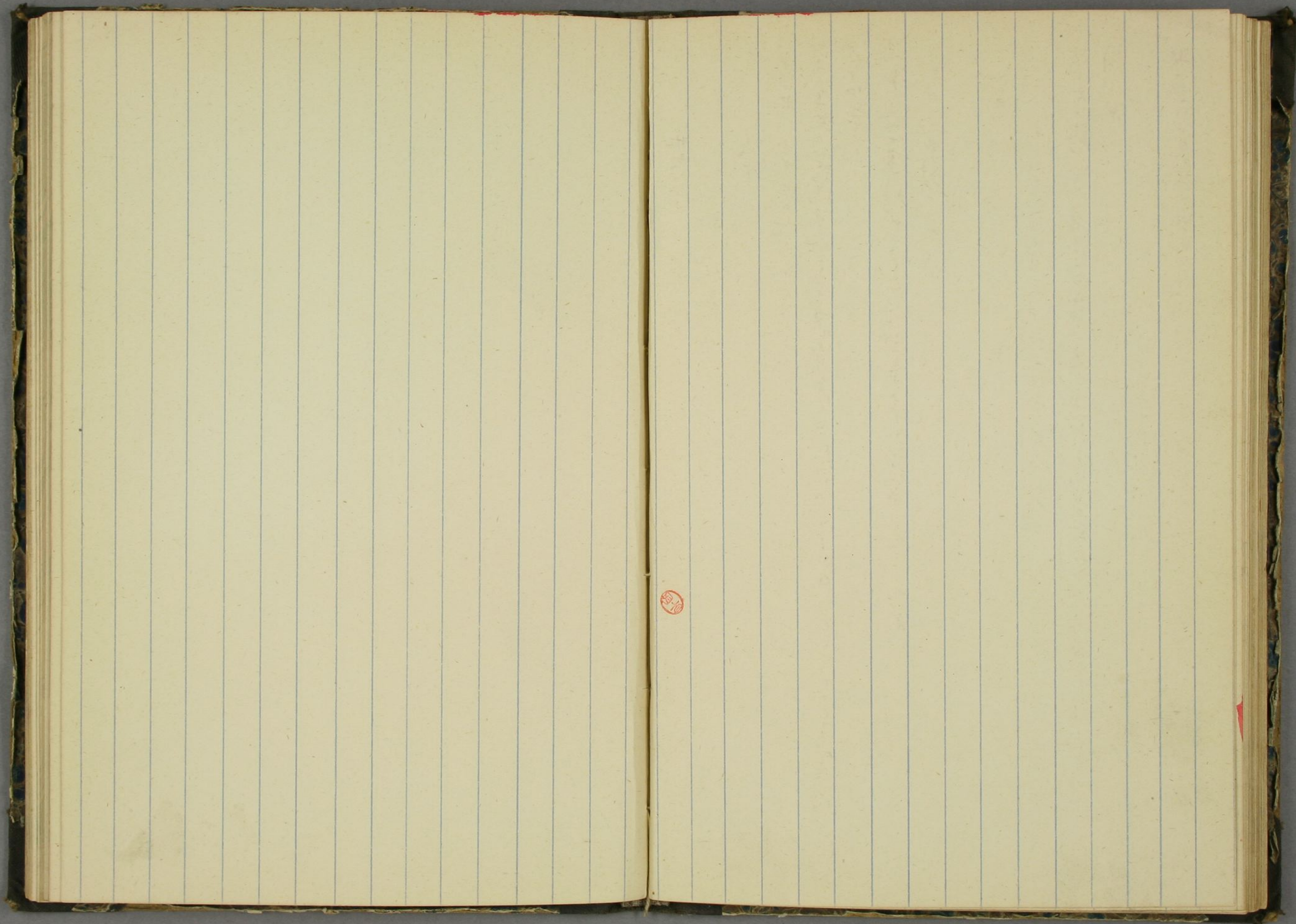
殊ニ此の如き諸國に階入ヘカラスルノ理由ハ第一項ニ於テカカメシ今ナリ
戦術上所謂孤軍援ナキモノナラハ大ニ城ヲスルヲ好サルナリ是
ヲ以テ是の今ヨリ少クモ一師團ニ充タスヲ以テ目的ト為スヘキナリ夫
レ此レ以テト云フ内地ニ於ケルカカメシ徵兵法ニ依リ本國人民ヲシテ
守リシク兵級ノ義務ヲ負ハシムルモノトセレカ目下人口稀薄過重
ニ義務ニ充テサルヲ如何セシテ之ヲ補フニ内地ヨリ派遣スルモノト
セン平昔巨額ノ冗費ヲ要スルノコトナラス有テ子々孫々我々編年ヲ
為スル常ニ不便ナリアルヘク且多ク日數ヲ費シ機期ニ後ルノ虞ナ
シトセズ況ニヤ海國防禦ノ常務トシテ免レシトシテ彼ノ路文
面ヲ動ルニ其利益ニ致シ要員ヲ充スルヲ好サルノ阻碍ナキヲ保セサルナ
リ又復令其一部補定ニ係ルモノト其地防役者ノ氣ヲ多ク要スル強民地人氏
ヲ以テ兵役ヲ負擔セシムルハ今日此の如き於テ適當ナルモノニアラサルナリ且
以テ之ヲ見ルニ今日ノ境遇ニ於テ此の如き適當ナル兵ハ即兵農並進條
自活ノ兵田兵ニ若クモナカルヘシ復令高木々人口稀薄ナル日ト其
是レ其ノ開キ且耕シ且守ルノ兵ヲ以テセハ一師團ニ充タス敵ニ

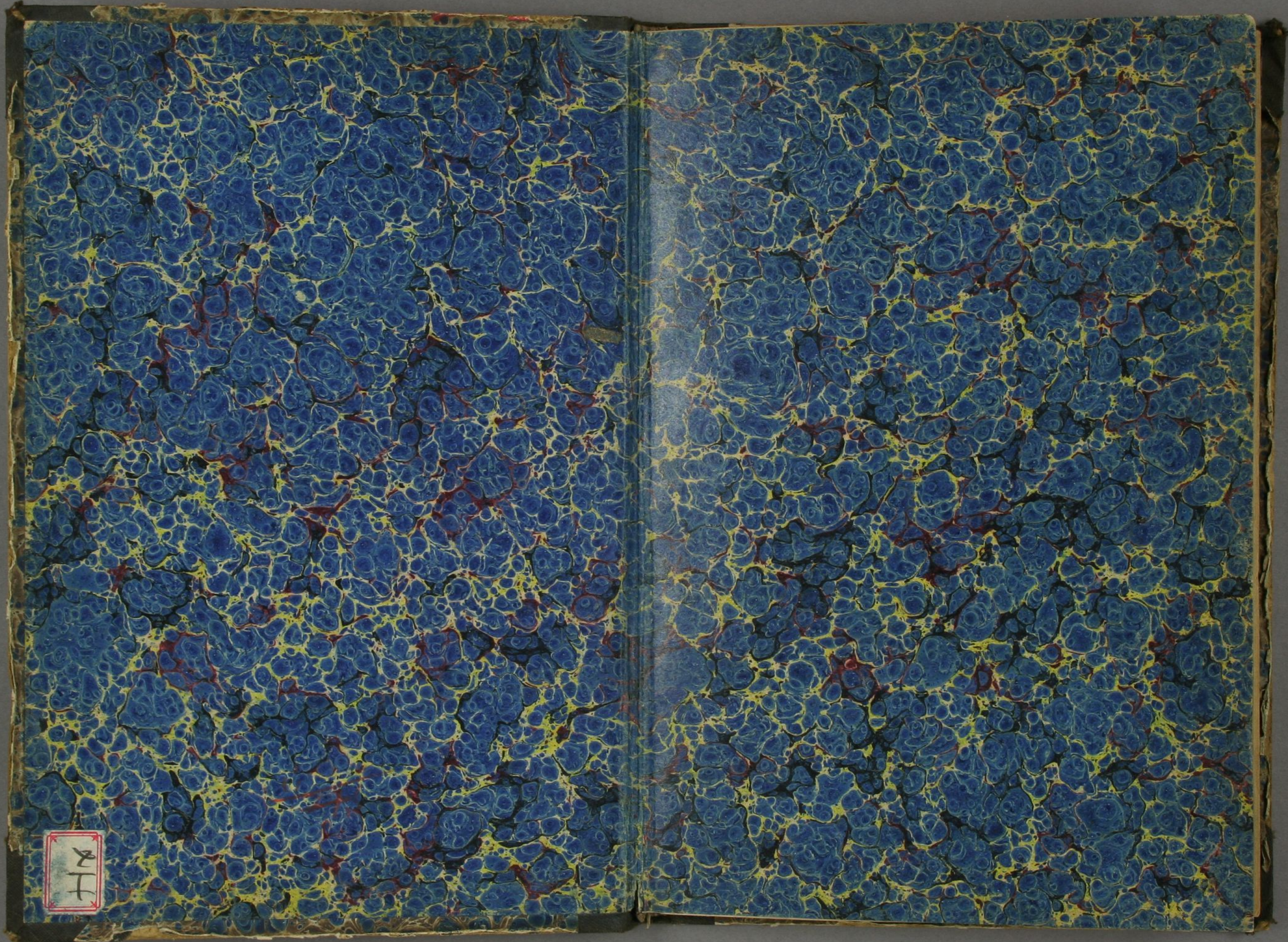
難キニアラサルヘシ即今ヨリ凡ソ十ヶ年ヲ期シ一師國ヲ達セシムル
ヲ以テ目的ト爲スヘキナリ

第四

結論

以上所述スルカ如ク方今宇内ノ形勢ハ殊ニ東洋ノ高麗日
月(朝鮮)ノ事ナラシトスルニ際シ我々吾々懸心隔紙立せん其
道モ亦朝鮮ノ内外世ノ注目スル所トナリ此際諸邦又大ニ拓殖ノ
机ヲ得テ朝鮮ノ兵備擴張強民ノ進歩ヲ力ムルヤ曰モ尚足ラサ
ルノ勢カタリ此際ニ際シ外侮ヲ防キ我々帝國ノ体面ヲ汚サス國力
ノ弱國ヲ謀リ以テ本道ノ保持ヲ全フセントモ必須ラリ内地兵備
敷心領ト共ニ日モ速ニ兵備ノ擴張ヲ力ムル地殖民ノ知ヲ養フ
是ヲ以テ宜シク此兩目的ヲ並有スル地田兵ヲ活殖ニ以テ其
道ノ富強ヲ圖發シ將來永遠ノ強國ニ與ニ共ニ其地ヲ獨立自
漸ノ實カヲ養成シ益々國礎ヲ鞏固ニシ並テ内地人民ノ繁
殖ニ對シテ需用供給ノ權衡ヲ保テ救貧賑恤ノ旨有テ適
セシムルハ國家ノ大計方今ノ日取大ニ急務ナ
ト云フヘキナリ





214

